

体験活動

10 野外炊飯	18
11 火おこし	19
12 天体観測	20
13 茜染め	21



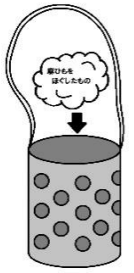
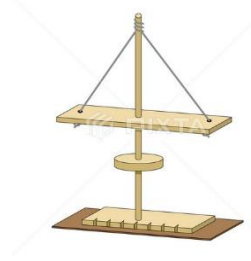
10. 野外炊飯

活動の目的	○包丁や火おこしなどを使って調理の知識と経験を養う ○協力して料理を作ることで協調性を養う ○自分が担当する役割を果たすことで有能感を味わう			
条 件	場所	炊飯場	対象	小学生以上
	時間	2～3時間	人数	100名程度（相談）
	時期	通年	天候	晴れ：○ 雨：△（少雨決行）
準備物	茜が準備・貸し出せる物		団体が準備するもの	
	・炊飯道具一式・火つけ用の新聞紙 ・食材、薪 ＊ナタが必要な場合は相談		食器用洗剤、クレンザー、スポンジ、 ライター・軍手	
展 開	1. 事前(当日までの準備) (1)活動日の場所、時間、天候を確認する。 (2)6名～8名程度（相談）の班を作り、役割分担する。 各班に飯ごう係、火おこし係、調理係等を決める。 (3)食数表に各班の食数や器具のレンタル数、申込書などをFAXで茜に送り確認する。 2. 活動(当日の流れ) (1)炊飯場へ移動し、調理器具や食材を受け取る。 (2)料理の作り方や諸注意を受ける。 (3)ケガ、火傷に気を付けながら火付け⇒調理をする。 3. 事後(片付け) (1)食事後は、道具を洗い、各食事場所のテーブルに置く。かまどの炭は所定の場所に片づける。 (2)ごみは袋にまとめてゴミ捨て場へ持っていく。 (3)片付けができているか、忘れ物がないかを確認する。			
実施の留意点	・衛生管理をきちんと行い、食中毒等の予防に努める。 ・火を扱うものは軍手を着用するよう注意を促す。 ・夏で行う場合、熱中症に注意する。 ・火おこし活動と連動して行うことも可能。 ★学校団体と他団体とでは、料金が違うので要確認。 ・食材、薪は有料（料金表参照）。			



11. 火おこし

ねらい	○マイ切り式で火をおこす体験をする ○火をおこす過程で根気を培い、火がついた達成感を味わう ○古代の人たちの生活における火そのものの価値や意味合いに触れる機会とする			
条 件	場所	炊飯場等	対象	小学生以上
	時間	30分～1時間	人数	10名につき1台
	時期	通年	天候	晴れ：○ 雨：△
準備物	茜が準備・貸し出せる物		団体が準備するもの	
	マイ切り式火起こし器一式 回旋火種拡大用具		麻ひも、脱脂綿等燃えやすいもの、軍手 火がつきやすくするために麻ひもや脱脂綿を細かくほぐす	
展 開	1. 事前(当日までの準備) (1)活動日の場所、時間を確認する。 2. 活動(当日の流れ) (1)ガイドハウスで火起こし器を受け取り、活動場所へ移動する。 (2)火のおこし方や諸注意を受ける。 (3)ケガに気を付けながら火おこしをする。 3. マイ切り式での火のおこし方 (1)火おこし器を持つ人と、敷き板と火きり板を押さえる人が向かい合わせで、準備をする。 (2)火おこし器のロープを心棒に巻き付け、横バーを両手で下げると火おこし器が回り始める。バーが下まで行ったところで、反動を利用して、心棒にロープを巻き付け、バーを上げ、また、横バー下げを繰り返す。 (3)火おこし器の先の火きり棒が、火きり臼の中でスムーズに回転するように、この動作を続ける。徐々に焦げ臭い臭いと白い煙が出てくる。 (4)続ける内に火きり臼から、摩擦でできた木の粉がV字の溝に落ちてくる。最初木の色をしてるが、続けていくとだんだん焦げ茶色、黒い色になる。 (5)V字の溝の木の粉が黒くなって、まだ続けていると、その黒い粉のかたまりから、煙が出るようになる。しっかりと煙が出ているのが確認できたら、回すのを止め、火おこし器をはずし、息を吹きかけると黒い木粉の中に火種ができる。 (6)敷き板の上にできた火種を脱脂綿とほぐした麻ひもの中に優しく入れる。 (7)火傷防止のために手袋をして火種の入った麻ひもをほぐした物や脱脂綿を持ち、息を吹きかけて火種を大きくしていく。 (8)更に息を吹いていくうちに炎がおきる。(回旋火種拡大用具を使用することも可) 4. 事後(片付け) (1)火起こし器(回旋火種拡大用具)はガイドハウスへ返却する			
実施の留意点	・火を扱うものは軍手を着用する。 ・火種回旋拡大用具を使用する時は周囲の人に当たらないように注意する。			



12. 天体観測

ねらい	○肉眼では見えない星を望遠鏡で見ることにより天体への興味・関心を育てる		
条 件	場所	天体観測室(ロッジ1号館2階)	対象 制限なし
	時間	1時間まで	人数 40名ほど
	時期	通年	天候 晴れ：○ 雨：×
準備物	茜が準備・貸し出せる物		団体が準備するもの
	反射望遠鏡(固定式)		
展 開	<p>1. 事前(当日までの準備)</p> <p>(1)実施時間、方法、流れを決める。 ※天体観測室に入れるのは5名程度(交代での星を見る) ※職員による星の解説は行いません(職員は望遠鏡の操作をします)</p> <p>2. 活動(当日の流れ)</p> <p>(1)18時までに担当する職員と打ち合わせ、実施の有無(天候条件)を決定する。 (2)実施時間にロッジ1号館2階天体観測室前に集まり順番に観測室に入る。 ※人数が多い場合はホール等にて待機する。 ☆望遠鏡に触れないで接眼レンズから星を覗く。 (3)星などを見たグループは次のグループと交代する。 ※人数が多い場合は、イベント広場等で別のプログラムを準備し同時進行されることをお勧めします。</p> <p>3. 事後(片付け)</p> <p>(1)振り返りを行う。</p>		
実施の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・天候により実施の可否が起こる活動です。天候の状況をこまめに把握する。 ・実施不可の時の別のプログラムを計画の準備する。 ・待ち時間が発生するので、別のプログラムをセットする。 		



13. 茜染め

ねらい	○自然の素材を活かしながら、オリジナルの作品を創意工夫する ○昔の染色方法を体験させることにより、日本の歴史や文化に触れる			
条 件	場所	2号館ホール横	対象	制限なし
	時間	2時間	人数	20名程度（相談）
	時期	通年	天候	晴れ：○ 雨：○
準備物	茜が準備・貸し出せる物		団体が準備するもの	
	講師招へい、茜草、布、鍋、ボウル、菜箸、バケツ		輪ゴム、ゴム手袋 エプロン	
展 開	<p>1. 事前(当日までの準備)</p> <p>(1)当日の人数、時間、場所等を確認する。 (2)道具の数に制限があるので、1班10名程度で班分けをする。 ※茜染め講師との打ち合わせ、確認（日時、染める素材等）</p> <p>2. 活動(当日の流れ)</p> <p>(1)作り方の説明や諸注意を受ける。</p> <p>作り方 材料：茜草、布 道具：鍋、ボウル、不織布袋、輪ゴム、菜箸、バケツ、ゴム手袋</p> <p>(1)布を水に浸す。 (2)ミョウバンをお湯で溶かし、水で割る。 (3)(2)の中に絞った布を入れ、30分浸透させる。 (4)不織布袋に茜草を入れて、輪ゴムで止める。 (5)水を煮沸させない程度に煮た鍋の中に茜草の入った袋を入れて、30～40分煮だす。 (6)(5)をバケツの中に入れ、菜箸かくはんし泡をなくす。 (7)ミョウバン液に浸透させた布を(6)に入れて染色させる(ムラがないように手早く動かす) (8)布を水で軽くゆすいだ後、もう一度染色する。 (9)水でしっかりゆすぎ絞った後、ロープに布を掛けて干し、乾いたら完成。</p> <p>3. 事後(片付け)</p> <p>(1)道具を片付ける。</p>			
実施の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服に染料がかからないよう気を付ける。 ・ 火傷や怪我に気を付ける。 ・ 外部講師との連絡調整を行う。 			



